

< 平成31年(2019年)おぼろば会新春初詣会[世田谷界隈の見学] >

2019年1月初詣会行程について

1/26(土)

- ① 9時45分 豪徳寺駅改札出口集合
- ② 10時00分 豪徳寺着
- ③ 10時30分 豪徳寺出発
- ④ 10時40分 世田谷八幡宮着
- ⑤ 10時50分 世田谷八幡宮出発
- ⑥ 11時00分 勝光院着 (時間によってはパス)
- ⑦ 11時10分 勝光院出発
- ⑧ 11時30分 代官屋敷・資料館着
- ⑨ 11時45分 代官屋敷・資料館出発
- ⑩ 12時00分 いし原着 (昼食)
- ⑪ 13時00分 いし原出発
- ⑫ 13時15分 松陰神社着
- ⑬ 13時45分 松陰神社出発
- ⑭ 13時55分 世田谷区役所着
- ⑮ 14時10分 世田谷区役所出発
- ⑯ 14時25分 世田谷城址着
- ⑰ 14時50分 世田谷城址出発
- ⑱ 15時00分 東急世田谷線上町駅着 (解散)



まほろば初詣会2019

《豪徳寺》

本寺付近は中世の武蔵吉良氏が居館とし、天正18年(1590年)の小田原征伐で廃城となった世田谷城の主要部だったとされています。文明12年(1480年)世田谷城主吉良政忠が叔母で頼高の娘である弘徳院のために「弘徳院」と称する庵を結びました。当初は臨済宗に属していたが、天正12年(1584年)曹洞宗に転じました。寛永10年(1633年)彦根藩主井伊直孝が井伊家の菩提寺として伽藍を創建し整備しました。寺号は直孝の戒名である「久昌院殿豪徳天英居士」によります。招き猫発祥の地とする説もあります。井伊直孝が猫により門内に招き入れられ、雷雨を避け、和尚の放談を聞くことができたことを大いに喜び、後に井伊家菩提寺にしたと言います。豪徳寺では「招福猫児(まねぎねこ)」と称し、招福観音(招福観世音菩薩・招福猫児はその眷属)を祀り、招猫殿を置いています。願いが成就したお礼として数多くの招福猫児が奉納されています。招福猫児は右手を上げており、小判などを持たない素朴な白い招き猫です。因みに右手を上げているものと、左手を上げているものがあります。右手を上げているものは金運を招くと言われており、左手を上げているものは人を招くと言われています。中には両手を上げているものがあり、これは金運と人の両方を招くと言われていますが、「バンザイ」するに繋がるとして縁起が悪いという説もあります。



仏殿の釈迦如来像



招猫殿

《世田谷八幡宮》

寛治5年(1091年)、後三年の役の帰途、源義家がこの宮の阪の地で豪雨に会い先に進めず天気回復を待つため滞在することになりました。その際、今度の戦勝は日頃氏神として八幡大神の加護によるものと思い、豊前国の宇佐八幡宮の分霊をこの地に勧請し祀ったことが始まりです。

かつては、奉納相撲の勝敗により来年の豊作・凶作を占ったり、今年の豊作を感謝したため、境内に土俵や力石があります。

渋谷氷川神社、大井鹿嶋神社と共に江戸郊外三大相撲の一つと言われています。今でも、毎年秋の例祭(9月15日)には東京農業大学相撲部による奉納相撲が行われています。



《勝光院》

吉良氏の菩提寺です。(1335年吉良頼氏創建)梵鐘は世田谷で2番目の古さ。第二次世界大戦の折、軍の命令により供出されましたが、鑄つぶしは免れました。世田谷区指定有形文化財(工芸品)となっています。良く手入れされた竹林と竹垣のある風景は「宮ノ阪勝光院と竹林」として「世田谷百景」に選定されています。

《世田谷代官屋敷・郷土資料館》

国指定重要文化財の世田谷代官屋敷は、江戸時代に彦根井伊家領世田谷(2300石余)の代官職を務め、明治維新に至るまで世襲した大場家が代官役所として使用していたものです。大場家は天正18年(1590年)の主家滅亡後は帰農して郷土になったと伝えられていますが、寛永10年(1633年)に、この地が彦根藩領となった時、代官に任じられ、以後明治維新まで代々代官職を継ぎ領内20ヶ村を支配しました。今も、敷地内に16代目の子孫の方々が生活しています。世田谷区郷土資料館は、世田谷区政30周年事業の一環として昭和39年9月10日に開館した都内最古の公立地域博物館です。建物の設計は前述した建築家・前川國男です。



吉田松陰

《松陰神社》

東京都世田谷区と山口県萩市にある神社です。幕末の思想家・教育者である吉田松陰及び彼の門下生である、伊藤博文、山形有朋はじめ松下村塾の生徒を祭神とし、学問の神として崇敬を受けています。鎮座地には、かつて長州藩の別邸がありました。松陰が安政の大獄で刑死した4年後の文久3年(1863年)、高杉晋作など松陰の門人によって小塚原の回向院にあった松陰の墓が当地に改葬されました。明治15年11月12日、門下の人々により墓の側に松陰を祀る神社が創建されました。現在の社殿は昭和2年から3年にかけて造営されたものです。

《世田谷ボロ市》

安土桃山時代に関東地方を支配していた小田原城主北条氏政が天正6年(1578)に世田谷新宿に楽市を開いたことが始まりです。

12月15・16日
1月15・16日に
行われます。

《世田谷区役所》

区役所第1庁舎、第2庁舎と低層棟、区民会館(1959~69年完成)はいずれも前川國男の作品で大変価値ある建物です。前川國男は近代建築の巨匠で、世界文化遺産に登録された国立西洋美術館の基本設計をしたフランス人、ル・コルビュジェの弟子で、同美術館の実設計もしました。全国の庁舎建築のモデルとなった世田谷区役所も既に60年余りを経過し、近年建替え論争が起こっています。因みに、戦後の建築界をリードした丹下健三、木村俊彦は前川事務所の出身です。また、前川レポートで知られる日本銀行第24代総裁の前川春雄は氏の実弟です。

《世田谷城址公園》

昭和15年に開園した世田谷区唯一の「歴史公園」で東京都指定文化財にもなっています。公園内には昔の面影を残す土塁や丘、谷があり、樹木に覆われた自然豊かな公園で、世田谷百景にも選ばれています。さぎ草の伝説の主人公「常盤姫」もここに住んでいました。世田谷城は、初代吉良氏が南北朝の頃、関東管領・足利基氏から戦の手柄により武蔵国世田谷領を貰い受け築城したのが始まりと言われています。以後、吉良氏八代、二百数十年の間居城として栄え、吉良御所、世田谷御所と呼ばれました。天正18年(1590年)豊臣秀吉が北条氏を滅ぼしたとき、北条氏と親戚関係にあった吉良氏も運命を共にしたため、廃城となりました。